

☆年間第20主日(8月14日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

### 第一朗読 (エレミヤの預言 38章 4-6, 8-10節)

その日、役人たちはエレミヤについて王に言った。

「どうか、この男を死刑にしてください。あのようなことを言いふらして、この都に残った兵士と民衆の士気を挫いています。この民のために平和を願わず、むしろ災いを望んでいるのです。」ゼデキヤ王は答えた。

「あの男のことはお前たちに任せる。王であっても、お前たちの意に反しては何もできないのだから。」

そこで、役人たちはエレミヤを捕らえ、監視の庭にある王子マルキヤの水溜めへ 綱でつり降ろした。水溜めには水がなく泥がたまっていたので、エレミヤは泥の中に沈んだ。

エベド・メレクは宮廷を出て王に訴えた。

「王様、この人々は、預言者エレミヤにありとあらゆるひどいことをしています。彼を水溜めに投げ込みました。エレミヤはそこで飢えて死んでしまいます。もう都にはパンがなくなりましたから。」

王はクシュ人エベド・メレクに、「ここから三十人の者を連れて行き、預言者エレミヤが死なないうちに、水溜めから引き上げるがよい」と命じた。

### 答唱詩編 (詩編40)

わたしはせつに神を呼び求め、  
神は耳を傾けてわたしの叫びを聞き入れられた。  
神はわたしの口に新しい歌を、  
神への賛美の歌を授けられた。

わたしはあなたの恵みを心の中に隠さず、  
救いの力と真実をのべつたえる。  
神よ、豊かなあわれみをわたしの上に。  
いつくしみとまことでいつも守ってください。

## 第二朗読（ヘブライ人への手紙 12章 1-4節）

皆さん、わたしたちは、このようにおびただしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか。信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をいとわないうで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。あなたがたが、氣力を失い疲れ果ててしまわないように、御自分に対する罪人たちのこのような反抗を忍耐された方のことを、よく考えなさい。あなたがたはまだ、罪と戦って血を流すまで抵抗したことがありません。

## 福音朗読（ルカ 12章 49-53節）

そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。しかし、わたしには受けねばならない洗礼がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう。あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言っておくが、むしろ分裂だ。今から後、一つの家にも五人いるならば、三人は二人と、二人は三人と対立して分かれるからである。父は子と、子は父と、母は娘と、娘は母と、しゅうとめは嫁と、嫁はしゅうとめと、対立して分かれる。」

## 朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

台風 8 号がやってきました。そして今日は 8 月 14 日です。暑い夏がまだ続きそうですが、コロナ感染症の方はどうでしょうか。ひところよりは感染拡大のスピードは鈍ったようですが、まだまだ予断は許せません。同時に、人間の引き起こす侵略戦争や紛争、人権侵害や専制・独裁政治など多くの地域国家で苦しみ、悲しみが絶えません。8 月 15 日は聖母の被昇天祭であり、また我が国のあの悲惨な戦争が終わった日です。二度と

戦争を起こさない、半和のために働くという決意を新たにしましょう。

### 第一朗読（エレミヤの預言 38 章 4-6, 8-10 節）

主の預言者エレミヤに対して都合の悪いことを言いふらす犯罪者だとゼデキヤ王の役人は王に訴えていることが語られています。神の言葉に対する反抗が後にバビロニアに攻め滅ぼされる結果を招くのです。神の言葉・神の望みと人間の望み・都合が語られているのです。神の望みは人間の幸せであり、それには間違いがありません。しかし人間の望みは不確かで、滅びに至ることも多いのです。

### 答唱詩編（詩編40）

この答唱詩編の答唱句は「神のみ旨を行うことこそ、わたしのこころのよろこび」と歌っています。

### 第二朗読（ヘブライ人への手紙 12 章 1-4 節）

この手紙の著者は信仰を守り通すことにおける苦しみ、困難を潔く身に受けて、忍耐強くは知りぬこうと私たちを励ましてくれています。人間社会の戦争や戦いは起こってほしくはないのですが、罪に対する心の戦いは勝たねばならないのです。イエスも十字架の死を前に自分との戦いにおいて血の汗を流すほどに戦われました。だからこそ私たちもそのイエスに見習わねばならないのです。そして「あなたがたはまだ、罪と戦って血を流すまで抵抗したことがありません」と、激励してくれています。

### 福音朗読（ルカ 12 章 49-53 節）

イエスは弟子たちを前に言われました。「私は火を投ずるために来た」と。つまり分裂をもたらすために来たと言うのです。イエスは別の場所では「私はあなたたちに平和を与える」とも言っています。平和とは何も争いが

ない状態ではなく、神のみ旨が行われている状態を指します。それからいうと私たち自身の心の状態は神のみ旨が行われているのか、社会においては神のみ旨が行われているかが平和の基準になるのです。イエスは家庭の状態を引き合いに出して、家族であっても神のみ旨を行っているならば平和がその家にあるだろうし、もし平和に見えても神のみ旨が行われていなければ、そこには闘い・諍い<sup>いさかい</sup>が生じるというのです。イエスの時代にも家庭の不和は問題になっていたのですね。



山中湖・雪の修道院(サレジアン・シスターズ)の聖母像

P.S.

ヘブライ人への手紙の著者がいみじくも言っているように私たちはまだ「罪と戦って血を流すまでに抵抗したことがない」のが実情です。重く心に響く言葉です。

明日 15 日は聖母被昇天祭の祭日です。ミサは 9 時のミサだけです。お間違いのないように。お待ちしております。

カトリック足立教会  
主任司祭 野口重光